

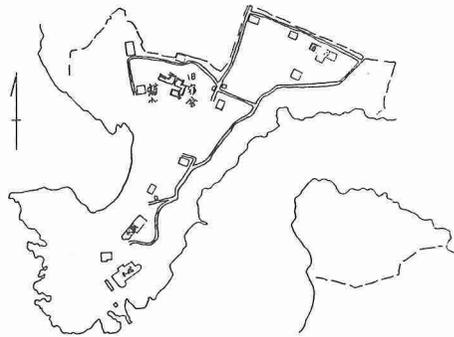
石渡綾子さんを送る

小 牧 総江子（臨海実験所）

石渡さん通称綾ちゃん（水族館を公開していた頃は若い女の子が数人いて、先生以外の職員は、男はさん、女はちゃんづけだったそうです）は、終戦後の昭和25年5月31日付で辞令をもらい、以来39年という長きに亘って実験所のために用務という隠れた大変な仕事一筋に尽していらっしゃいました。その間、実験所を訪れた学生・研究者は今ではそれぞれの分野の第一線に立って活躍されており、皆をみてきた綾ちゃんとしては目を細める思いだと思います。

綾ちゃんの仕事は朝は実験所本館の掃除から始まります。昭和46年迄は数人で手分けをして会議室の壁板まで拭く程でした。一服してから宿舎（昭和50年迄は明治時代の木造建築）に上がり清掃、これが又大変で、はたき、箒、バケツ、雑巾を使い畳の部屋、長い廊下、離れ、便所（勿論水洗でない上に手洗いの水道もついていない）をきれいにした後、宿泊者の使ったシーツ、枕カバー、寝巻等の洗濯までしたそうです。今でこそ全自動洗濯機を使っているものの、当時は盥、洗濯板、固型石鹼でゴシゴシと手洗いをしなければならずさぞ大変だったろうと思います。それが済むと教官宿泊部屋の布団敷、その間水族館の忙しい時代には昼食時の交替の切符切りの手伝もしたといいます。四時半になると、再び下に降りて来て水族館の掃除の手伝をして、五時過ぎに皆一緒に帰路につくという毎日だった様です。土・日・祭日は休みなしで昭和45年頃迄は土・祭日の代休は全くもらえず、その後土曜半日と日曜日の代休を平日にもらえる様になったらしい。綾ちゃんの代休は火曜日の午後から水曜日で、私がここにお世話になってからは水曜日は家で休養をとりなさいといわんばかりに雨の日がとても多かったと記憶しています。46年9月1日には水族館が閉館となり、

その掃除はなくなりました。51年には新宿舎が完成し、電化の恩恵を被る様になった。とはいえ用務の仕事をするのは綾ちゃんだけになり、臨海実験時にはやはり大変な事だと思います。現在では朝は7時過ぎには出勤し、実験所本館の掃除を一手に引き受けています。それをこなし、宿舎に上がり掃除、洗濯と一日中休みなく働き、気候に合せた布団替えの気配りや、冬でも蚊が出る様なところなので殺虫対策など、長く勤めあげた職員でなくては出来ないことをしっかりやって下さっています。今、綾ちゃんは半生をこの実験所に捧げ輝かしく退こうとしています。後任もとれないまゝ綾ちゃんに今辞められてしまったら、7万6千平方メートルの土地にちらばっている実験所の管理はどうなるのでしょうか。本館はもとより、宿舎は荒れてしまうのではないかと大変不安です。



こゝで綾ちゃんの人となりにちょっと触れてみたいと思います。とてもタフで働き者であることはおわかりいただけたと思います。そればかりでなく頭の方も働き者で、とても記憶力がよく、実験所の古い出来事や来所者の事ならまず綾ちゃんに聞いてみたらという程です。また、絶対に公私混同をしないことや、曲ったことが大嫌いで、そんな時には誰にでもぶつかって行く程です。お説教をされたり怒られたりした職員や学生は何人も

いるのではないのでしょうか。また、人情に厚く所内の困った人に朝晩2ヶ月も食糧を車で運び続けたり、長野に行って来たといっは所員に抱えきれない程のリンゴやナシをお土産に下さったり、気持の大きい親分肌の方です。

女手一つで御子息を育て上げ、父母を看取り、

家を新築し、今では御子息と娘の様なお嫁さん、それに10匹余の犬猫に囲まれ、とてもお幸せそうです。実験所を去られた後もどうか健康に気をつけて、開放された自由な時間に向って羽ばたいて下さい。